

いちばん身近な環境保護活動とは・・・。



犬を飼い始めると、どうしても環境問題が気になります。

近所の道や公園のゴミなどにも目が行きがちとなります。

犬が靴をはかないこともあります。臭いにも敏感なことから

町の汚れは思わぬケガや拾い食いによる病気などの原因にもなってしまうからです。

犬と暮らし始める前までは、何気なく通り過ぎていた道や公園のゴミなどが目につきます。どうして、人はこんなにも自分勝手に町を汚すのだろうかと思も立てるようになります。

犬にとって毎日の散歩は重要で、なおかつ一番楽しい時間でもあります。

臭いを嗅ぐ習性は、犬にとっては近所の人に挨拶をし、会話を楽しむようなことと同じで、自分の住む場所の情報収集のためにはかかせません。

道の臭いだけでなく、両脇の植え込みや、草むらの臭いを嗅ぐことも大事なことです。

しかし反面、その場所にはゴミも多いのです。

また、靴をはかず、服も着ず、毎日お風呂に入ることのない犬のためには水や空気の綺麗さも大事な要素となります。特に都会の飼い主にとってはゴミやほこりだけでなく、自動車の排気ガスや独特の悪臭も気になり出すのです。

少しでも口にすることで、悪い要素があるものは避けたがることとなります。

従って周囲の環境の破壊や汚染が気になると同時に自らも避けようとする気持ちが高まるのです。



都会だけでなく、地方でも犬に対する環境汚染の危機はあるのです。

農村などでは普通に使っていた農薬や除草剤が犬の口に入り、命の危機になることもありますし

観光地などではお弁当の食べ残しや、ビニール袋も危険物となります。

犬の目線になって歩いて見れば、町の道路には危険なものでいっぱいです。

ゴミだけでなく、釘やガラス片など、足にさされれば大ケガをする物まで落ちています。

すべての動物の命に関わる環境破壊や汚染の問題も

一見遠い世界のことも感じますが、犬の目を通して見るとすぐそばの身近な問題としてとらえることができます。

地球の環境を大切に、未来の地球を守ろうとする意識の最初の一步は人間以外の動物を家族として迎え、共に暮らし始めることから生まれるのかもしれない。

2020年11月

NPO 法人ワンワンパーティークラブ 三浦 健太 著